

動物用医薬品副作用症例報告 (平成17年10月分)

薬事法第77条4の2に基づく動物用医薬品副作用症例報告を次のとおり掲載する。

医薬品の名称 (製造(輸入)業者名)	副作用発現動物						副作用等発現の概要及び転帰						
	種類	性	年齢等	投与前の健康状態・疾患等	関連医薬品の投与歴等	既往歴	投与量・投与法	投与年月日	併用薬	副作用発現年月日(投与後時間)	副作用等の種類	講じた処置	転帰
インターキャット (ネコインターフェロン(組換え型)) 東レ(株) 製造番号: CK03	猫雑種	雄	5歳	不健康 鼻水、くしゃみがひどい。	不明	不明	2MU/ 頭皮下注射 (用法・用量以外)	平成17年 10月17日	バイトリル 2.5% 注射液	平成17年 10月17日	痙攣、流涎 元気、食欲はあるが、鼻水、くしゃみのある猫に11時00分、インターキャットとバイトリル2.5%注射液を同時に皮下投与した。 11時05分～11時10分病院を出た途端、ひきつけ、よだれ(アナフィラキシー様ショック)を起こした。	治療 プレドニゾロン注射液「ミタカ」 0.1cc/kg及び水性デキサメサゾン注射液Aをグルノン注射液5%と混ぜて静脈内投与したところ落ち着いた。 13時00分下痢、 15時00分嘔吐発現。酸素吸入、硫酸アトルピン注射液0.25mg、ボスミン液0.1%注射液1mgを投与したが17時00分死亡	死亡
<p>《企業の意見及び対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当獣医師：同時投与したため、インターキャットとバイトリルのどちらに因果関係があるのか分からないが、どちらかによるアナフィラキシーショックであると思われる。 ・企業：本剤投与時にバイトリルが同時投与されているため、どちらによるものかは判断できない。プレドニゾロン及びデキサメサゾンの投与により一旦は回復したが、状態が悪化し6時間後に死亡したものである。発生時にさらに高用量のプレドニゾロンが投与されていれば再度悪化を防げた可能性もあると考えられる。今後も引き続き、販売元を通じて注意を喚起していきたい。 ・対応：情報入手1週間後の10月26日に、本病院を訪問し、死亡にいたるまでの詳細と、担当獣医師の意見を確認した。アナフィラキシーショックについては、すでに添付文書に記載済みであるが、今後も引き続き、販売元を通じて注意を喚起していくこととする。 													